

## 企業経営とポジティブ・アクションを考えるシンポジウム

日時 平成 18 年 2 月 22 日（水）13 時～15 時

会場 女性と仕事の未来館

主催 女性の活躍推進協議会、厚生労働省

## 【開会挨拶】 岡田広厚生労働大臣政務官

### ○岡田政務官

皆さん、こんにちは。今日は川崎厚生労働大臣が参れませんので、代わってお伺いをさせていただきます。茨城県選出の参議院議員、岡田広です。本日は、女性の活躍推進協議会の委員である企業のトップの方々に、ポジティブ・アクションの必要性、企業経営に与える影響について、ご発言いただくわけですが、ポジティブ・アクションが女性のためだけではなく男性にとっても、また企業にとってもプラスになるものだという認識が広まり、ポジティブ・アクションが広く普及していくことを願うものであります。

私は厚生労働大臣政務官を拝命した縁で、今日は皆さんとお会いすることができました。「縁」という漢字は左側は糸偏です。縁があって出会っていろいろな話をして絆が深まると言います。「絆」という字も左側は糸偏です。一緒になる「緒」という字、結納の「結」、「納」という字、企業の組織の「組」、「織」という字、約束の「約」も「線」も網の目のようにすべて左側は糸偏です。漢字の原義は糸であると思っています。経営の「経」も左側は糸偏ですが、経営という言葉は仏教辞典で引いてみると、「目標を定めて、それに向かって精進すること」と書かれてあります。経営の「経」はお経の経とも読みます。ばらばらの玉も1本の糸で結ばれば立派な数珠になります。糸が切れたら数珠になりません。そういうことから考えても考え方は十人十色です。しかし、議論をして決まったら、その目的に向かって1本の縦糸で結ばれるという、そういうことがとても大事なことになるだろうと思います。

そのためには何が必要か。今日、お出でになれない企業の皆さん、あるいは地方公共団体の皆様方に、今日のシンポジウムの模様を1人でも多くの人たちに話をする。それが元気の風を広げるということになるのだろうと、そう思うわけであります。

3つの輪という言葉があります。談話の話、対話の話、会話の話、「話」という漢字です。話をすることから組織の輪が広がります。これは三輪車の「輪」という漢字です。話をすることから和やかになります。平和の「和」という漢字です。私たちの国の最初の憲法、聖徳太子の十七箇条の第一条は「和をもって尊しとなす」ということです。

食べ物にも和え物という食べ物があります。ワカメやネギやウド、海の幸や山の幸がそれぞれ自分の持ち味を主張しながら、味噌や酢や調味料によって混ぜ合わせることで、もっといい味を出すのが、和え物という食べ物のはずであります。和え物の「和」も平和の「和」という漢字です。和がいかに大事かということだと私はそう思っています。

和の色は何色だと言われたら、私は紫ということにしています。交差点の信号機は赤と青と黄色です。この3つの色を混ぜ合わせると紫という色になります。紫という漢字は比

較の「比」のような字を書いて、下は糸です。合わさると糸になるという、そういうことなのだと、そう思っています。

この、和を最も大事にしたのは徳川家康という人です。関ヶ原の戦いが終わって、そして大坂冬・夏の陣が終わって天下を統一したと見た家康は、征夷大將軍の座を息子秀忠に譲りました。その時に1つだけ注文をしたことが元号を変えるということです。元和という元号に改めさせました。元気の「元」に平和の「和」という漢字です。和の始まりということです。いちばん平和を愛した人、これが私は家康だったと、そう思うわけですがけれども、家康はまさにこの話、そして情報を流すことによって、世界に例を見ない260年の安定政権をつくりました。

福島正則という人が家康に拝謁し、徳川家には徳川四天王というのがあって未来永劫に安泰であると、そんな話をしましたら、家康は、いやいや徳川家には徳川四天王ではなくして、徳川十天王がおるのだと言ったそうです。四天王というのは本多忠勝、酒井忠次、榊原康正、井伊直政、この4人の人はみんな徳川家の家来の人たちは知っているけれども、徳川十天王というのは初めて聞く言葉だ。それでは後の6人は誰かと問うたところ、家康はただ笑っているだけで、それに答えようとはしませんでした。実は家康にも他の6人を挙げるとしたら、甲乙付けがたく、名前を挙げるができなかったということです。

しかし、徳川十天王という話は、その日のうちに福島正則から現代のIT時代のように情報が旗本八万騎をはじめとして、徳川の重臣、家臣の人たちに流れ、私こそが十天王の1人である。いやいや我こそが十天王の1人であると、徳川家の家臣の人たちがそう思いながら、徳川家に忠誠を尽したということでもあります。260年の世界に例を見ない安定政権は話によって、情報を発信することによってつくられたということでもあります。

もう1つだけお話をしたいと思います。いまから5年前のNHK大河ドラマは『武蔵』を取り上げました。今年『功名が辻』です。山内一豊の妻の千代ですが、支える人がいてすべてがうまくできるということで、この話はしませんが、なぜ『武蔵』を放送したかという考え方はいろいろあると思います。武蔵の剣の哲学は勝つことよりも負けない工夫をするということにありました。この時代に負けるということは死を意味したということです。死なないために何をしたか。敵と戦うときには絶対に太陽と向き合わない。太陽の光で一瞬目が眩んだら相手に斬られてしまう。複数の敵と戦うときには、大刀と小刀の2本ありますから2刀で戦う二天一流を編み出しました。

一乗寺下り松の決闘のときのように、たくさんの敵が来たらどうするか。武蔵は決闘の前の日と2日前と2日間、一乗寺の決闘の現場を見に行き、自分の目で確かめて、しっかりと目で情報を心の中にインプットして戦いに臨みました。たくさんの敵が来たときには、田んぼの狭い畦道から逃げて行こうと考えて武蔵は決闘に臨みました。たくさんの敵が来

ました。一目散に畦道を逃げながら、追い掛けるほうは2列、3列になれませんから1列縦隊で追い掛けます。武蔵は振り返って1人斬っては逃げ、また振り返って1人斬り、36人斬りをしたのはご承知の話です。

そして何よりも情報を大事にしたのは武蔵です。巖流島での佐々木小次郎との決闘は、力では互角でした。死なないために何をしたかという、小次郎の友人、知人に会って小次郎の性格、長所や短所をしっかりと聞き取りました。人一倍短気な性格を読み取った武蔵は、わざわざ巖流島の決闘の時刻に遅れて行きました。小次郎は決闘の時刻になっても武蔵が来ないので、二つ折の椅子に座りながら居ても立っても居られません。しびれを切らせていらいらしていた。

そういう時に船が岸辺に着きました。小次郎は二つ折の椅子から立ち上がって一目散に駆け出し、「武蔵、見参」と大きな声で言いながら背中に背負った物干し竿のように長い刀を抜きました。その次に何をしたかという、左手で刀の鞘を放って海の中に捨てました。十分に動きが悪いと思ったのだと思います。その瞬間を武蔵は見逃さなかったということです。今度は武蔵が大きな声で、「小次郎、敗れたり」と言いました。小次郎は自分が戦う前になぜ敗れたかわからない。そう考えているうちに武蔵の次の言葉が続きました。「勝者は自分の刀を収める鞘を海中に捨てたりはしない」と大きな声で言いました。その一言で小次郎は「しまった」と思ったのだと思います。平常心を失ったということです。そこに隙ができたということです。その一瞬の隙を武蔵は見逃さず、両手で長い木刀をしっかりと握り締めて、小次郎の脳天目指して打ち下ろしました。互角の勝負がその一撃で決まりました。どんな時代も、今も昔も話をする、情報を発信するということが、いかに大事かということなのだろうと思っています。

昨年1年間を締め括る漢字は「愛」でした。愛という漢字は受け止めるに心という字が組み合わさってできています。相手の心を受け止めるのが愛です。この話はしませんけれども、それでは愛の次に何が来るのかという、日本ではあいうえお順と言いますから、愛の次は上を向いて目指して歩んで行く。それがこの1年だということだろうと私は思っています。上を目指して歩くというのは、夢や目的を持って頑張る自分の仕事や私生活のことなのだろうと思っています。

私たちが普段使う「夢」という漢字も草冠を書いて四と書きます。辞書を引くとユメという漢字はもう1つあります。是非、この機会にご認識をいただければと思います。女偏に右に又と書いて下に力と書きます。努力の「努」と読みます。努めるとも読みます。もう1つの読み方がユメです。今日の感激を努々忘れないで、それぞれの企業や地方公共団体で、企業や地域発展のために頑張れという時に使う努々は努を2つ重ねて努々(ユメ)と読みます。ユメは努力によって実現される。ユメは努力によって達成されるという言葉の持つ意味だと私は理解しています。辞書を引いてもネットからもユメという漢字は、私

たちが普段使う「夢」という漢字と努力の「努」の2つしか出てきません。

そして夢を持って歩くためにはどうしたらいいかというと、あいうえおの次に来るのはかきくけこという言葉です。考えるということが始まりです。考えたら記録をする。そして工夫をする。この1年で何をやるかと考えたとき、できるものとできないものを取捨選択すると思います。取捨選択したら今度は優先順位を付けると思います。工夫をするということが最も大事な時代だと私は思っています。そして計画して行動する。これを仕事のかきくけこと呼んでいますが、是非、そういう考え方も少しインプットして、今日のこのシンポジウムから、是非、皆さんの心の中にたくさんいいことを吸収して、そしてお出でになれなかった、1人でも多くの人たちに話をしてあげることが大事なことだろうということで、それを重ねてお願いして、ご挨拶に替えたいと思います。ありがとうございました。

#### ○司会

続きまして、間もなく始まりますパネルディスカッションのコーディネーター、パネリストについてご紹介させていただきます。コーディネーターの渥美雅子様は、弁護士活動の中でも家族、相続、ドメスティック・バイオレンス等の問題を中心に活躍されていらっしゃるのと同時に、女性少年問題審議会会長代理、労働政策審議会委員等を歴任、2005年、男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰を受賞され、現在、財団法人女性労働協会会長、女性と仕事の未来館館長としてもご活躍されていらっしゃいます。

次にパネリストの大橋光博様は、株式会社西京銀行代表取締役頭取でいらっしゃいます。大橋様は1995年、日本銀行を退職後、西京銀行に入行され、強いリーダーシップの下、女性の活躍推進に取り組み、その結果、西京銀行は平成17年度「均等推進企業表彰」厚生労働大臣最優良賞を受賞されております。また2003年、藍綬褒章を受賞、2005年より内閣府男女共同参画会議議員としてもご活躍されていらっしゃいます。

次にパネリストの丹羽宇一郎様は、伊藤忠商事株式会社取締役会長でいらっしゃいます。丹羽様は政府税制調査会委員、総務省政策評価・独立行政法人評価委員会委員長等、要職を兼任されていらっしゃいます。また女性の活躍推進協議会座長としてもご活躍いただいております。

同じくパネリストの水越さくえ様は、株式会社イトーヨーカ堂常務取締役でいらっしゃいます。水越様は2006年1月より、株式会社セブン&アイ・ホールディングス執行役員、またCSR企業の社会的責任の担当部署である社会・文化開発部シニアオフィサーの要職を兼務されていらっしゃいます。また女性の活躍推進協議会発足当時から、ポジティブ・アクションの推進について積極的にお取り組みいただき、現在、座長代理としてご活躍いただいております。

